

算 数 通 信

(自己テーマ)「子どもが見方・考え方を働かせ、自ら学習を進めるには？」

テーマ：「個別最適な学び」と「協働的な学び」のために一斉授業では？

「個別最適な学び」の実現に向け、学習支援動画を活用した「単元内自由進度学習」が実践されつつあります。この学習は、一単元すべての学びを教師の指示によってではなく、子どもたちが自ら選んだり決めたりして、自らの学習を組み立てていく学習方法です。また学習形態としては実践が少ないのですが、「個別学習」もあります。単元を一斉授業と「個別学習」で分けて行うものです。

町内では、「単元内自由進度学習」を実践されている先生方が複数おられ、ノウハウを蓄えられています。私は、「単元内自由進度学習」だけでなく、算数科の「個別学習」にも挑戦して、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の手段としての学習形態を増やしていければと考えています。

そもそも「個別最適な学び」と「協働的な学び」は内閣府から出され、2022年6月7日に「骨太方針2022」として閣議決定されました。その中には、「人と人の触れ合いも大事にしながら、一人一台端末環境を前提として、自分のペースで試行錯誤できる『個別最適な学び』と『協働的な学び』の具体化を早急に実現する」と示されています。「人と人の触れ合いを大事にする」「自分のペースで試行錯誤できる」という文言は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の本来の意味とは違いますが、それぞれの学びの特徴を表していると思います。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実践するために、少し整理します。

1つ目は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」が目指すところは何かということについてです。大事なことなので、改めて書きます。

まず、「個別最適な学び」と「協働的な学び」は、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のために行うものであるという位置付けです。そして、「主体的・対話的で深い学び」は、「自ら学び続ける人」(能動的な学び手)を育てることを最終目標にしているということです。

次に、「個別最適な学び」の考え方です。キーワードとなるのは、「指導の個別化」と「学習の個性化」です。この考え方については、中教審答申(2021)に示されていますので、詳しくはそちらをご参照ください。自分の理解でまとめたことを書きます。

「指導の個別化」とは「一定の目標を全ての子どもたちが達成することを目指して、教科書の内容を学習者一人ひとりの特性や学習進度に合わせて身に付けさせていく指導」。

子どもが、自身の特性を把握し、自分にとって効果的な学習方法を知ることも含みます。

「学習の個性化」は、「教科書の内容を発展させ、学習者が自分の興味・関心のあるものを選んで学習を深め、広げていく学習」。その中で子どもがどのような方向性で学習を進めていったらよいかを考えていくことも含むということです。「学習の個性化」は、各自がテーマを設けた「探究学習」と言えます。

「個別最適な学び」は「協働的な学び」ができて成り立ちます。

先生から「問題を解くときは一人で解きなさい」とか、「ペアで交流しましょう。」などの指示を受けなくとも、自分で必要なときに人と関われるような人間関係や学習環境にすることが前提ということです。学級経営にもつながっています。

授業では先生の指示がなくても、例えば自力解決の時間でも、子どもの必要性に応じて子どもたちがだれとでも関われるようになっていくことが大事です。子どもを主体にした学びは、学習形態や学習方法を子どもたちが選択できることが前提だからです。また、「個別最適な学び」は「孤立した学び」ではないからです。

2つ目は、「個別最適な学び」を成り立たせるために一斉授業ではどのような力を付け
たらよいかということです。

「個別最適な学び」では、自分で考えて、自分で決めて学びを進めていかなければなりません。ということは、一斉授業の過程でも、自分たちで学びが進められるという実感を持たせる授業体験を積み重ねていく必要があると考えます。それがないと、いつもでも教師主体の授業展開から、先生も子どもも抜けきれません。

そのために一番に考えることは、一斉授業が「数学的な見方・考え方を働かせる」授業
であることだと考えます。「数学的な見方・考え方」とは、大雑把に言うと「既習事項を意識して使う」「いろいろな考えから共通点を見つける」「問題を発展させて考える」ことです。

先生方も「子どもたちが、既習事項を意識した考え方をしているか」「学級の何割が既習事項を使っているか」などについて、関心をもっていただきたいと思います。

最低限「数学的な見方」ができる子どもを育てていきましょう。

そうしないと、毎時間前に学習したことを使わず、「その時間限りの解き方を知って終わり」という、非常に効率の悪い授業を行うことになります。また、「单元内自由進度学習」や「個別学習」を自力や仲間と協働で進めるには、ハードルが高すぎることになるのではないのでしょうか。